

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな 経済フラッシュ

## (日銀金融政策決定会合)

2018/1/23

りそなホールディングス 市場企画部

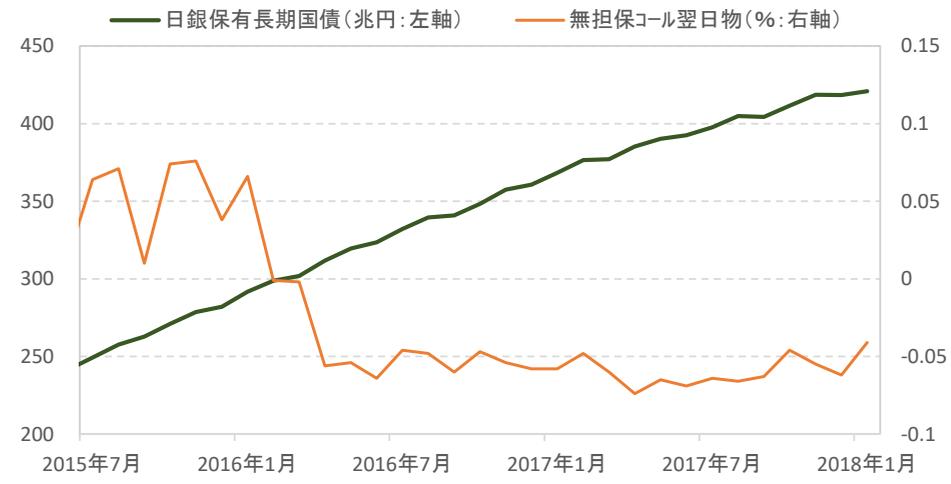


### 〇概況

- ◆ 政策金利▲0.1%、10年金利目標水準0%、国債買入れペース年間80兆円は変更なし
- ◆ 展望レポートは、10月と比較して成長率、物価、リスクバランスについて概ね不変であった
- ◆ 日銀の政策スタンスは当面様子見であろう

- ✓ 日本銀行は1月22-23日の金融政策決定会合にて、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の継続を決定した。
- ✓ 主な政策は以下の通り。長短金利操作（イールドカーブ・コントロール）：日銀当座預金残高のうち、政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用。また、10年国債利回りがゼロ%程度で推移するよう、長期国債買入れを実行。買入れ額は概ね現状ペース（年間80兆円増）をめど。ETF・J-REITの買入れは、それぞれ年間約6兆円・約900億円ペースで保有残高拡大。CP等・社債等はそれぞれ約2.2兆円・約3.2兆円の残高を維持。
- ✓ 前回に続き、片岡審議委員が上記提案に反対。2018年度中に物価安定目標を達成するために、10年以上の幅広い国債金利を引き下げよう、長期国債の買入れを行うことが適当とした。
- ✓ 10月に公表された「経済・物価情勢の展望」と比較して、成長率、物価見通しに概ね変化はなかった。リスクバランスについて、「経済について上下バランス」、「物価については下振れリスクの方が大きい」と10月時点のコメントを維持した。
- ✓ 今年に入り、長期国債の買入オペが減額となったことをきっかけに日銀の出口政策についての警戒感が高まっているが、本日の決定会合の結果を見る限り、これまでと金融政策スタンスに変化はない。黒田日銀総裁の記者会見が注目されるが、「現在の長短金利操作付き量的・質的金融緩和のもとで、引き続き強力な金融緩和を進めていく方針」とのコメントを繰り返すであろう。

【日銀が保有する長期国債残高と翌日物金利】



【2017-2019年度の政策委員の大勢見通し（1月時点）】

(対前年比、%)	実質GDP		消費者物価指数 (除く生鮮食品)		消費税率引き上げ の影響を除くケース	
	+	-	+	-	+	
2017年度	+1.8%	~	+2.0%	+0.7%	~	+1.0%
10月時点の見通し	< +1.7% >	~	> +2.0% <	< +0.7% >	~	> +1.0% <
2018年度	+1.3%	~	+1.5%	+1.3%	~	+1.6%
10月時点の見通し	< +1.2% >	~	> +1.4% <	< +1.1% >	~	> +1.6% <
2019年度	+0.7%	~	+0.9%	+2.0% ~ +2.5%	~	+1.5% ~ +2.0%
10月時点の見通し	< +0.7% >	~	> +0.8% <	< +2.0% ~ +2.5% >	~	< +1.5% ~ +2.0% >

【出所】日本銀行、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。